令和7年度 市長と語る会　坂井市自治会連合会

期日	令和7年9月18日（木）	時間	19:00～20:30	場所	坂井市役所3階大ホール
参加者	坂井市自治会連合会代議員／12人　…三国町区長会連合会役員、地区区長会会長				
	坂井市／12人　…市長、副市長、教育長、総務部長、健康福祉部長、建設部長、生活環境部長、産業政策部長、各支所長				

参加者からの意見・提案等（一部抜粋）	市からの返答
Q.私の自治会では74％の世帯がデジタル回覧板「自治会サポ！」に登録し、子ども会やPTAの配布物をデジタル化しております。また、高齢者も利用し、緩やかな見守りにも役立っています。今後も市による広報・PRの継続をお願いしたいです。	A.「自治会サポ！」の便利さを広めるため、広報さかい等を通じて利用促進に努めてまいりたいと思います。紙文書が必要な方もいますが、多くの方に使っていただけるよう、今後も広報活動を強化してまいりたいと思います。
Q.高齢化により区の戸数減少や空き家の増加、区長の担い手不足が課題となっています。区の統合も根本解決には至らず、今後の活動維持には先進地の事例や情報の共有が重要です。坂井市や県内の似た状況の情報・アドバイスを参考に、持続可能な区運営を模索しくことが必要だと思います。	A. 自治会サポの活用で業務軽減は可能ですが、防災などは人の力が必要です。行政だけでは限界があり、共助の役割が重要です。合区も選択肢の一つとして、今後の対応を検討・研究していきたいと思います。
Q.今年から区長を務め、若い世代が市政に無関心であることを実感しました。市の取り組みを広くPRし、協力を促す工夫が必要だと感じました。また、民間企業で働く立場から、行政サービスに民間の力を活用する可能性にも注目しています。特に民生委員の担い手不足や高齢者支援では、民間委託によるきめ細かな対応が有効と考えます。市としての考えや方針を伺いたいです。	A.行政だけではまちづくりが難しい時代となり、市民や民間の協力が不可欠です。坂井市では地域課題に取り組む団体への補助制度を導入し、市民参画を促進しています。空き家の改修や防災イベントなど、住民主体の活動も広がっており、楽しみながら地域を盛り上げる動きが生まれています。今後も広報を通じて活動の輪を広げ、坂井市らしいまちづくりを進めていきたいと思います。
Q.坂井市で開催されるワークショップには、高校生から高齢者まで幅広い世代が参加し、斬新なアイデアや意見交換が活発に行われ、他地域の取り組みも共有され、互いに学び合う場となっております。今後もこうしたワークショップを気軽に広げていくことが重要だと感じています。	A.ワークショップは、世代や立場を超えた多様な意見が集まり、知恵を出し合えるのが大きな魅力です。今後も積極的に広げていきたいと考えています。ただし職員数には限りがあるため、住民自身がテーマを持ち寄って自主的に開催することも歓迎します。環境、防災など幅広いテーマでの対話が重要であり、行政も柔軟に対応していきたいと思います。
Q.区長として地域活動に関わる中で、子どもたちが誇れる住みやすいまちづくりを目指したいと感じています。丸岡城周辺では、住民や学生が参加する地域プロジェクトが活発で、にぎわいが生まれています。一方でハード面の整備には限界があり、道路や街灯などのインフラ整備を含めた支援をお願いしたいです。	A.住民によるソフト面の活動が活発化する中、行政としてはハード面の整備が重要な役割と思います。霞ヶ城公園の整備は完了しましたが、道路などのインフラ整備は一度に対応できないため、周辺整備の進行に合わせて順次対応していきたいと思います。